



<会場入り口>



<会場風景>

会 場	朝来市和田山ジュピターホール
研究課題	子どもと大人が、互いに学び合える環境教育の実践に向けて ～ともに学び、成長できるP T A～
基調講演	中本 賢氏 (俳優) 繋がる大切さと「気付き」 ～子どもと遊ぼう ふる里の再発見～
実践発表	稲津 賢和氏 (和田山ひめぼたるの会) 「子どもたち、学校と歩んだ25年の環境教育の実践」
コーディネーター	清野 未恵子氏 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
パネリスト	清水 裕貴氏 (兵庫県立コウノトリの郷公園指導主事) 前田 敦司氏 (特定非営利活動法人かなべ自然学校校長) 島川 武治氏 (滋賀県立近江富士花緑公園所長) 疋田 啓二氏 (公益社団法人日本P T A全国協議会元副会長)

歓迎アトラクションは、朝来市少年少女オーケストラによる壮大な演奏で迎えていただきました。小学校3年生から社会人までで構成されており、今年で30年を迎え、オーケストラが地域に根付いている事に大変感銘を受けました。

基調講演会では俳優の中本賢氏による、自然と遊ぶことの大切さを感じさせられました。中本氏は俳優業の傍ら多摩川流域の公立小学校で環境学習をボランティアで行っており、川遊びを通じて学校や子どもと繋がる楽しさを地域へと発信しているそうです。およそ50年前の多摩川は工業排水や家庭排水で汚れていて、生物が生きられない環境ではないのが当たり前の時代だったそうですが、今では川で魚を捕まえたり、ライフジャケットで浮かんでみると、綺麗になった川で遊ぶことで子どもたちの笑顔が絶えないとの事。自分も小学校時代は、良く川で遊んだりもしました。楽しさも自然の怖さもその時に学んだ事も多く、今では始めから危ないことは親やその周りが止めてしまう傾向がありますが、経験しないと分からない事ももちろんあるのではないかと思います。その「気付き」を大人も一緒になって学ぶことで、判別の出来る子どもの成長を育てていけることが環境教育ではないかと考えさせられる講演でありました。

実践発表は稲津氏が長年取り組んでいる「ヒメボタル」の環境学習について発表されました。人付き合いが苦手だった稲津氏が今では、人付き合いの苦手な子どもたちと一緒に「ヒメボタル」を通じて自然の大切さを伝える活動をされています。また、「ヒメボタルサミット」を開催し学んだことを発表する場を作ったりして、積極的に子どもたちを前に出していくことで、人との繋がりや自身を認めてもらえる場を作っていたことが、25年続けてこれた自信になったそうです。活動当初子どもだった子達が親となり、現在では一緒に活動できていることはまさに「ボタル」がきっかけとなり地域やP T A、学校がうまく繋がるが出来ていることに感心させられました。

本分科会では環境教育がテーマになっており、自然が人と人を繋ぎ、また子どもと大人が共に学び成長できるようなP T A活動を地域と連携して目指していく事の大切さを感じさせられました。